

《随筆》 優しさ

アクトン 旧中一

僕が二歳頃のある夜の出来事だ。十一年前くらいの小さい頃のことだが、今でも何となく覚えている。

その頃は、小さい二階建ての家に住んでいた。家族はみんな上の階にいて、寝る準備をしていたが、僕は暗闇の中、下の階で眠くて動けなくなっていた。その時、僕は何も聞こえなくて、何も言えなくて、見えるのは上の階からのだいだい色の電気の光だけだった。誰も僕を上

の階へ運んでくれないと絶望していたら――

「トントン・トントン」
そんな音が聞こえた。お父さんかな。お母さんかな。そう考えていたら現れたのは兄だった。

僕の兄もその頃は小さく、五・六歳ぐらいだった。

兄は僕を全力で運んだ。兵士が最後の戦いをしているような顔をし、階段を上って行った。

「トントン・トントン」

階段を上っている間、僕は、

「兄は本当に優しい。」
と思っていた。

今、この思い出のことを振り返って、自分はその時、初めて「優しさ」を感じたから、このことをまだ覚えているのだと思う。僕は普段兄のことをうざいと思うけれど、本当の兄はいつも僕を助けてくれて、優しく、尊いんだと知っている。

【評】学年の締めくりに授業で随筆を書きました。これまで学んだ文章の工夫をふんだんに使って「思い出の意味」を振り返ることができました。



《生活文》 きんちゃんどわたし

アクトン 旧小一

わたしが、赤ちゃんるとき、おにいちゃんどよくあそびました。

わたしのおにいちゃんの名まえは、きんちゃんです。

わたしは、きんちゃんのすることが、おかしくて、よくわらっていました。わたしのおにいちゃんはおもしろかったからでした。

いまは、きんちゃんとは、あまりあそんでいません。どうしてかというど、じかんがないし、けんかになるからです。

でも、きんちゃんは、やさしいから、大好きです。

【評】○○○○○○さんのお兄さんへの気持ちと、お兄さんの○○○○○○さんを大切にする温かさが伝わるすばらしい作文です。



《詩歌》 イギリス

フレント 旧小二

フィッシュアンドチップス、おいしいな
もぐもぐもぐ
電車いつでもつかえる
がたんごんがたんごん
人がいっぱいあるく
とことことこ
くるまいっぱい
ブンブンブン
ビックベン大きいな
カーンカーンカーン



【評】ロンドンを歩いているといろいろな音が聞こえてきますね。

《発表原稿》 もじものきこいぞろぞろ

アクトン 旧小四

私は、調べたことから、地しんが起こった時には、早めにひなんすることが大切だと考えました。

なぜなら、地しんはものすごい力をもっていて、東日本大しんさいで六十八万むね以上の建物か、火事やはかいにあつたからです。学校で地しんがあつた場合、つくえの下にかくれ、つくえがない場所は、だんご虫をやつて頭を守ります。

もう一つ、必ず物が落ちてこない、たおれてこない、いどうしてこない、ということをかくにんして身を守りましょう。

このような理由から、あせらず、ひなん用バックをできるだけすぐに用意して、ひなんすることが大切だと思いました。

【評】家で調べてきたことを基に、地震のときにするべきことを分かりやすくまとめました。よい発表原稿です。

《俳句》 家

クロイドン 旧小三

家に住む わたしの兄は 発明家

【評】「家」の音訓読みを理解し、摩耶さんのお兄さんのすばらしさを俳句で表すことができましたね。

《俳句》 美

クロイドン 旧小三

美しい すがたで歩く 美人さん

【評】漢字の音訓を正しく使えましたね。字も美しく書けました。